

新型コロナウイルスの影響下における競技会・試合運営の手引き

2023/3/1版

本手引きは、JFA 主催の国内競技会（全国大会等）を開催するにあたり、新型コロナウイルスの感染症対策の詳細な部分を想定して設定しています。

競技会・試合運営に携わる皆様に本手引きの内容を理解していただき、主管 FA、参加チーム、審判員を中心に連携をはかりながら、円滑な運営につなげていただき、試合成立へ向けてご協力くださいますようお願い申し上げます。

1. 事前の対応

主管 FA は、会場において感染対策の準備を行うとともに、参加チーム、審判員、メディア等に対し感染防止のために遵守すべき事項を明確にして事前に連絡し協力を求めることが重要です。

(1) 感染対策責任者の設置

主管 FA 及び参加チームは、事前、試合日、事後にお互いが連絡を取り合える環境を構築するため、それぞれ感染対策責任者を設置する。

-1. 感染対策責任者の主な作業内容

主管 FA 及び参加チームの感染対策責任者の主な作業は以下のとおりとし、感染対策が実行されているかを確認し、改善を要する場合、その旨指示する。

主管 FA	<ul style="list-style-type: none">① 競技会運営における感染対策の立案、必要に応じてチェックシートの見直し② 競技会運営関係者および参加チーム、メディア等への感染対策計画の周知③ 手指消毒液設置の確認<ul style="list-style-type: none">・人の通行する主要な任意の位置に設置する④ 関係者の体調管理の把握<ul style="list-style-type: none">・チーム、審判団、その他関係者の体温を記入したものを管理 (提出を必須とせず各自管理とし、必要に応じて提示を求める)
参加チーム	<ul style="list-style-type: none">① 移動、競技会期間中における感染対策の立案② 選手、チーム役員、その他関係者への感染対策の周知③ 手指消毒液設置の確認<ul style="list-style-type: none">・人の通行する主要な任意の位置に設置する④ 関係者の体調管理の把握<ul style="list-style-type: none">・選手、チーム役員の体温を記入したものを管理

(2) 感染の予防

競技会および試合運営に関わる方々は、以下の事項を遵守する。

-1. 感染の予防

ア. 個人防衛（マスク・身体的距離・会話の制限）の考え方

日常生活、チーム活動、大会運営、試合観戦などの各場面において①～⑩を継続する

- ① 基本的な予防行動
- ② 感染予防の習慣化
- ③ リスク行動を減らすこと
- ④ マスクの着用については、以下のマスキュールに則る

※3/13以降は、各個人のマスクの着用は個人の判断に委ね、政府の方針に従うことを基本とする

- ・マスクなしの場合：距離（2m目安）をとるか、会話を制限
- ・距離なしの場合（2m未満目安）：マスクをつけるか、会話を制限
- ・会話ありの場合：マスクをつけるか、距離を制限
- ・換気の悪い場所：複数人数の利用時はマスクを着用

※「距離あり」とは「2m以上空ける」ことを指します

※濃厚接触疑い基準に準拠しています

厚生労働省 HP を参照

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentaisaku_00001.htm

↓

- ⑤ 咳エチケットに十分配慮する
- ⑥ 手洗い、手指消毒をこまめに行う
- ⑦ 3密（密閉、密集、密接）を避ける
- ⑧ タオル、飲料ボトルなどの共用はしない
- ⑨ 健康チェックシートの記録・管理
- ⑩ その他 JFA、主管 FA が示す注意事項を遵守する

イ. 集団防衛（3つの密の回避）の考え方

3つの条件（いわゆる「三つの密」）がどれか1つでも該当する場面は感染を拡大させるリスクが高いと考えられ、基本対策の目安を示す

- (1) 密閉（換気の悪い密閉空間である）
- (2) 密集（多くの人が密集している）
- (3) 密接（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）

(1) 密閉の回避

屋内では以下のいずれかの対策を実施する、もしくは対策を実施している場所を選ぶ

- ・ 空調設備の使用による強制的な機械換気
- ・ 窓もしくはドアの定期的な開放（目安：30分に一回以上、数分間程度、窓を全開）
- ・ 常時換気扇の使用

- ・ 湿度は 50%以上（少なくとも 40%以上）に保つことが推奨される
 - ・ いずれもできない場合は、マスク着用のもとごく短時間での利用や場所の移動を検討
- (2) 密集の回避
- ・ 混雑を避ける、もしくは滞在が短時間となる工夫を行う
 - ・ 混雑が予想される場合は、マスク着用、かつ人と人が触れ合わない距離を確保する
 - ・ 運営者は、混雑が予想される場合は、最低限、上記 2 点を周知することに加え、列整理もしくは待機場所を明確にする目印の設置が望ましい
- (3) 密接の回避
- ・ 対人対応、接客、演出等で人と人との接触を伴う可能性がある場合は、前後で手指衛生（手洗いもしくは手指消毒）を行う
 - ・ 飛沫拡散リスクの回避
プレー中の選手を除き、発声する場面では、発声する者のマスク着用（不織布マスクを推奨）または発声中 2m以上を目安に距離を空けることを求める

-2. 健康チェック

対象者は以下の観点から自身の健康状態について問題のないことを確認する。

- ・ 平熱を超える発熱
- ・ 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪症状
- ・ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）

-3. 参加可能な健康状態について

競技会または試合開催 2 週間前から当日までの健康状態において、発症及び症状消失の状況が認められた場合、発症日から 7 日間が経過※し、かつ症状軽快（解熱剤を使用せずに解熱し、呼吸器症状が改善傾向）後 24 時間経過していれば、出場、参加が認められる。ただし無症状の場合は、5 日目に抗原検査により陰性が確認できれば 6 日目から参加可能とする。

対象者への対応は以下のとおりとし、上記に該当しない場合は、各感染対策責任者が対応し、参加を自粛させ、最終的に主管 FA 感染対策責任者が情報を把握する。

選手、チーム役員：当該チーム感染対策責任者

運営スタッフ、メディア：主管 FA 感染対策責任者

※「発症日から 7 日間経過している」とは、発症日を 0 日として 7 日間のことを言います

期間計算のイメージ図

7 日以降に症状軽快の場合

0 日	1 日	2 日	...	7 日	...	X 日	X+1 日
発症						症状軽快	最終日

7 日以前に症状軽快の場合

0 日	1 日	2 日	...	X 日	...	(※5 日)	...	7 日
発症				症状軽快		(※最終日)		最終日

※そもそも症状が無い場合、5 日目に検査キットで陰性を確認した場合は 5 日目が最終日

(3) チームの移動

参加チームは、以下の点に留意して対応してください。

また、JFA、主管 FA は、以下の点に留意して対応します。

-1. 飛行機、新幹線

① 考え方

- ・ チームは常に健康状態をモニタリングしている集団であり、チーム単位での移動により感染対策を万全にする

② 航空機

- ・ 航空機内は、空気が約 3 分で、すべて入れ替わる換気のよい空間です

③ 新幹線

- ・ 新幹線の車内も、6～8 分ですべての空気が入れ替わる

-2. バスによる長距離移動

① バス利用に際して、以下の点に留意する

- ・ 乗車時はマスクの着用を推奨する
- ・ 車内の換気に留意する。1 時間に 3 回程度の換気が推奨される

-3. 近距離の移動

① 移動に際して、以下の点に留意する

- ・ 乗車時はマスクの着用を推奨する
- ・ 車内の換気に留意する。1 時間に 3 回程度の換気が推奨される

(4) チームの宿泊

参加チームは、感染リスクを回避するため以下の点に留意して対応します。

また、JFA、主管 FA は、必要に応じて以下の点に留意して対応します。

-1. 手指消毒液の設置

人の通行する主要な任意の位置に手指消毒液を設置する

-2. 部屋割り

- ① 可能な限り絞った人数での宿泊とし、密を避けて設定する（対応できない場合は、選手同士の体調管理を徹底する）
- ② 部屋の換気を良くする（温度 21 度、湿度 50～60%が推奨される）
- ③ 環境（使用する器具等）を適宜消毒する

-3. ミーティング

- ① 使用する諸室は換気を行い、参加者はマスクルールに則りマスクを着用する

(5) 会議・セレモニーの計画

感染防止のため、競技会開催にあたり付帯して行われる以下の会議やセレモニーの実施方法を検討する。

-1. 監督会議／代表者会議

監督会議、代表者会議を実施する場合は、以下の点に注意して対応する。

- ① 3密を避けて開催する（物理的な移動距離やタイミング、内容によってWEB会議システムで行うかを主催者が判断する）
- ② 「感染の予防」を意識して行動する
- ③ ユニフォーム決定は、競技会開催前に参加チームよりユニフォーム写真を提出してもらい、その試合で着用する正副いずれか一方を主催者が事前に決定して参加チームに通知する

-2. 開閉会式・表彰式

開閉会式・表彰式を実施する場合は、以下の点に注意して対応する。

<接客、イベント、セレモニーを企画する場合の対応の目安>

- (1) 換気の悪い所では実施しない（空調設備の使用による強制的な機械換気、窓もしくはドアの定期的な開放、常時換気扇の使用のいずれもできない室内）
- (2) 混雑が予想される場合は予め人と人が触れ合わない距離での待機を周知する
・列整理もしくは待機場所であることを誘導する目印の設置が行えることが望ましい
- (3) 会話・発声を伴う可能性がある場合は常時 2m 以上離れるか、マスクを着用する
- (4) 人と人との接触を伴う可能性がある場合は前後で手指衛生を行う
- (5) 不特定多数の多くの者が触れるものは定期的に消毒するなどして衛生を保つことが望ましい（飲食時のテーブル、接客台等）

2. 会場管理における感染対策

(1) 試合開催について

政府方針や自治体のガイドラインに従い、一般の来場者、ファン・サポーターに対して観戦機会を提供する。

-1. 観客への制限

① 無料・有料共通

※今後、感染状況により変更になる可能性があります。

- ・ 2023年1月27日の政府発表に基づき、以下の通りとする。

感染状況に応じたイベント開催制限等について				別紙1
		安全計画策定(注1)	その他 (安全計画を策定しないイベント)	
下記以外の区域	人数上限(注2)	収容定員まで(注3)	5,000人又は収容定員50%のいずれか大きい方	
	収容率上限(注2)	100%		
重点措置区域	人数上限(注2)	収容定員まで(注3)	5,000人	
	収容率上限(注2)	100%(注4)	大声なし:100% 大声あり:50%	
緊急事態措置区域	時短	原則要請なし(注5)	原則要請なし(注5)	
	人数上限(注2)	10,000人 (対象者全員検査により、収容定員まで追加可) (注6)	5,000人	
	収容率上限(注2)	100%(注4)	大声なし:100% 大声あり:50%	

※遊園地やテーマパーク等については、都道府県知事の判断により、上記の緊急事態措置区域、重点措置区域と同様の制限を適用することも可能
(注1) 参加人数が5,000人超かつ収容率50%超のイベントに適用(緊急事態措置区域、重点措置区域においては、5,000人超)
(注2) 収容率と人数上限でどちらか小さいほうを限度(両方の条件を満たす必要)
(注3) 地域の実情に応じて、都道府県知事の判断により、人数上限の制限を行うことも可能とする
(注4) 緊急事態措置区域、重点措置区域における安全計画策定イベントでは、基本的に「大声なし」の担保が前提
(注5) 都道府県知事の判断により要請を行うことも可能
(注6) 対象者全員検査における検査結果の陰性を確認する対象者は、定められた人数上限を超える範囲の入場者とする。都道府県の判断により、対象者全員検査の活用を行わないことも可能

イベント開催等における必要な感染防止策		別紙2
基本的な感染防止策	具体的な対策例 ※対策の例であり必須の取組ではないことに留意すること	
1. イベント参加者の感染対策		
(1) 感染経路に応じた感染対策		
①飛沫感染対策 <input type="checkbox"/> 適切なマスク(不織布マスクを推奨。以下同じ。)の正しい着用の周知・徹底 * 適切なマスクの正しい着用については、厚生労働省HP「マスクの着用について」を参照。なお、屋外において、他者と距離がとれない場合であっても会話をほとんど行わない場合は、マスクの着用は必要ないことに留意すること。 <input type="checkbox"/> イベント会場(客席、入退場口やトイレ等の共用部)におけるイベント参加者間の適切な距離の確保	<input type="radio"/> マスクを着用しない者に対する個別注意等の具体的方法の検討・実施 * マスクを着用しない者の退場措置の事前準備・周知(チケット購入時の約款に明記等) * 警備員や映像・音声によるモニタリング、個別注意や退場の徹底 <input type="radio"/> 入場ゲートの増設、開場時間の前倒し、時間差・分散退場の実施、密集を回避するための人員配置や動線確保等の体制構築、交通機関との連携(駅付近の混雑度データを踏まえた増便等)による誘導 <input type="radio"/> 密になりやすい場所での二酸化炭素濃度測定器等を活用した混雑状況の把握・管理、マーキング、誘導員等の配置による誘導	
②エアロゾル感染対策 <input type="checkbox"/> 機械換気による常時換気又は窓開け換気 * 必要な換気量(一人当たり換気量30m ³ /時を目安)を確保するため、二酸化炭素濃度を概ね1,000ppm以下を目安(二酸化炭素濃度測定器の活用が効果的) * 機械換気が設置されていない場合の窓開け換気は、可能な範囲で2方向の窓開け * 機械換気、窓開け換気ともに、相対湿度の目安は40-70% * 屋外開けは除く <input type="checkbox"/> 適切なマスクの正しい着用の周知・徹底【①と同様】 <input type="checkbox"/> イベント会場(客席、入退場口やトイレ等の共用部)におけるイベント参加者間の適切な距離の確保【①と同様】	<input type="radio"/> 各施設の設備に応じた換気 * 施設に備わっている換気設備の確認、その仕様を踏まえた適切な換気 * 二酸化炭素濃度測定器による常時モニターや映像解析を活用した換気状況を確認するための手法の検討・実施 * 換気能力維持のための定期的な検査・メンテナンス <input type="radio"/> マスクの着用及び距離の確保については、①飛沫感染対策の対策例を参照	

イベント開催等における必要な感染防止策		別紙2
基本的な感染防止策	具体的な対策例 ※対策の例であり必須の取組ではないことに留意すること	
(1) 感染経路に応じた感染対策		
③接触感染策 <input type="checkbox"/> イベント参加者によるこまめな手洗・手指消毒の徹底や、主催者側によるイベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）の消毒の実施 <input type="checkbox"/> イベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）におけるイベント参加者間の適切な距離の確保【①と同様】	<input type="checkbox"/> 具体的な手洗場、アルコール等の手指消毒液の設置場所、準備個数等の検討・実施 <input type="checkbox"/> アナウンス等による手洗・手指消毒の呼びかけ <input type="checkbox"/> 距離の確保については、①飛沫感染対策の対策例を参照	
(2) その他の感染対策		
④飲食時の感染対策 <input type="checkbox"/> 上記（1）感染経路に応じた感染対策と併せて、飲食時の感染対策（食事中以外のマスク着用等）の周知	<input type="checkbox"/> アナウンス等による飲食時の感染対策の呼びかけ <input type="checkbox"/> 飲食専用エリアの設置及び当該エリアでの飲食の推奨 <input type="checkbox"/> 飲食店に求められる感染対策等を踏まえた飲食専用エリアでの感染対策（身体的距離の確保等）	
⑤イベント前の感染対策 <input type="checkbox"/> 発熱等の症状がある者のイベント参加の自粛の呼びかけ	<input type="checkbox"/> 体制構築の上、検温・検査の実施 <input type="checkbox"/> 発熱等の症状がある者の参加自粛を促すことができるキャンセルポリシーの整備	

イベント開催等における必要な感染防止策		別紙2
基本的な感染防止策	具体的な対策例 ※対策の例であり必須の取組ではないことに留意すること	
2. 出演者やスタッフの感染対策		
⑥出演者やスタッフの感染対策 <input type="checkbox"/> 出演者やスタッフによる、練習時・本番等における上記（1）感染経路に応じた感染対策に加え、健康管理や必要に応じた検査等の実施 <input type="checkbox"/> 舞台と客席との適切な距離の確保など、出演者やスタッフから参加者に感染させないための対策の実施	<input type="checkbox"/> 日常から行う出演者やスタッフの感染対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・健康アプリの活用等による健康管理 ・出演者やスタッフの必要に応じた検査の実施 ・発熱等の症状がある者は出演・練習を控える ・練習時やその前後の活動等における適切なマスクの正しい着用、出演者やスタッフの関係者間の適切な距離確保、換気等 <input type="checkbox"/> 本番及びその前後の活動における出演者やスタッフの感染対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・控室等における換気やマスク着用の徹底、三密の回避 ・舞台上等でのマスク着用の有無に応じた演者間の適切な距離の確保 ・本番前後でのマスクの適切な着用 ・イベント前後を含めた1.（2）④飲食時の感染対策の徹底の呼びかけ <input type="checkbox"/> ステージと観客席間の適切な距離の確保、出演者やスタッフ及び観客双方への感染対策の周知	

・主管 FA は上記開催条件につき、あらかじめ自治体の了解を得る

-3. 応援スタイルについて

マスクを着用することを前提として密を作る応援も解禁しますが、飲食時のマスクを外しての会話は禁止とします。

-4. 観客、ファン・サポーターへの事前のご案内

① 無理な来場は、勇気をもって、見合わせてください

- ・体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

- ② マスクルールに則りマスクを着用する
- ③ 手洗い、手指消毒をこまめに行う
- ④ 喫煙所を設置する場合は、飛沫拡散を防ぐため、大声や近距離での会話を控えることを周知する

(2) 会場管理

-1. 場内放送、大型映像装置の運用

- ① MC はマスクを外し、それ以外のスタッフはマスクルールに則りマスクを着用する
- ② 告知の実施については、通常通り実施する。また、新型コロナウイルス感染症対応に関する注意・お願い告知を随時行う

-2. 場内／場外売店・イベント

- ・ スタッフはマスクを着用し、消毒を励行する

(3) 会場の諸室衛生管理

運営諸室において、以下のとおり設定する。

- ① 各部屋に手指消毒液を設置する
- ② 換気を良くする
- ③ トイレなどでハンドドライヤーを使用する場合は、予め清掃を行い衛生管理に努める

3. 競技運営における感染対策

(1) 参加チーム、審判員、及び競技

-1. スタジアムへの到着

- ① 両チームは、競技会規定の指定時刻までに会場に到着する
- ② 審判員は各自到着し、試合終了後、各自退出する
- ③ 当日検温を行う

-2. 更衣室（参加チーム及び審判）

更衣室内で会話をする場合は、マスク着用を推奨する

-3. 選手の治療、マッサージ

- ① トレーナーは、マスク・手指消毒など感染対策をとった上で対応する
- ② 環境（使用する器具等）を適宜消毒する

-4. ボールパーソン、担架要員

- ・マスク着用を推奨する

-5. マッチコーディネーションミーティング

実施する場合は、十分な感染対策を行った上で実施する。

-6. 試合開始前のウォーミングアップ

- ・選手、チーム役員、審判員は、マスクをしなくてよい
- ・室内で実施する場合は換気に留意する

-7. 選手及び審判団のピッチ入場～キックオフ

① 選手集合スペース

- ・選手集合スペースは、選手、審判員で十分な距離を確保する

② 入場動線

選手及び審判員が入場する際、お互いに十分な距離を確保する

③ リスペクト旗など旗の入場を行う場合は、選手、審判員と交わらないようにし、選手、審判員との十分な距離を確保する。

尚、フラッグベアラーはマスクを着用し、入場前の集合位置までの動線を選手、審判員と交わらないようにする

④ エスコートキッズを行う場合は、以下のいずれかの手順により行う

A：手をつなぐに選手と接触しないよう距離を保って実施する（子どもたちはマスク着用した状態で入場する）

B：以下の手順により選手と手をつないで実施する

- ・子どもたちは、選手と手をつなぐ直前のタイミングで手指消毒する
- ・子どもたちはマスク着用した状態で入場する

-8. チームベンチ

近距離かつ長時間（15分以上を目安）会話をする場合はマスク着用を推奨する。

(2) 来賓対応

-1. ケータリング

- ① ビュッフェ形式の食事提供を行う場合は、サーブをするスタッフを配置することも検討する
- ② 飲食時にマスクを一時的に外す場合、感染リスクが高まる可能性があるため、マスクルールを厳守すること

-2. 貸し出し物

- ① ブランケット等、防寒具の貸し出しを行うことはできるが、一度利用したものを再度利用することは控える

(3) メディア対応

試合を取材するメディアに対しても、事前に感染対策を周知し、次に記載されている内容を遵守するように伝えます。

-1. メディア全員に求められること

1. 事前の対応 (2) 感染の予防を遵守する

-2. 試合取材における必須事項

競技会・試合の取材申請を事前に締め切ることにより、取材者の人数調整が可能となり、試合会場の設備に合わせて、3密を避けることにより、感染リスクを下げることができます。

- ① すべてのメディアが JFA への事前申請を必須とする
- ② 取材活動ができる人数制限を設け、取材許可されたメディアのみ会場内での取材を可とする

-3. 会場内の対応について

- ① メディア入口、メディア動線は、チーム・審判と完全に分け、接触がないようにする
- ② 記者会見場やミックスゾーン、控室においてメディアはマスクを着用し、不必要な会話は控える。

-4. 試合終了後の対応

- ① 対面で実施する場合、以下の通りの対応とする
 - ・ 監督・選手は距離を確保し、必要な感染対策を講じて対応する
 - ・ 監督・選手とメディアが交わらないよう、かならずエリアをプラ柵・テープなどで仕切る
 - ・ 監督・選手とメディア間の距離を確保する。
 - ・ フォトグラファーは試合終了後の対応エリアに入らない
 - ・ できるだけ換気の良い場所で取材を行う
 - ・ できるだけ短い時間で取材を終える

4. 様式

(1) 健康チェックシート

健康チェックシート							
＜基本情報＞							
団体名				代表者 連絡先			
フリガナ				生年月日	西暦	年	月 日
氏名				電話番号			
				Eメール アドレス			
住所	〒						
＜大会当日までの体温＞							
日付	起床時体温	日付	起床時体温	日付	起床時体温	日付	起床時体温
/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃
/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃
/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃
/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃	/ ()	℃
＜大会前2週間における健康状態＞ ※該当するものに「✓」を記入してください。							
チェック項目							チェック欄
① 平熱を超える発熱がない							
② 咳（せき）、のどの痛みなどの 風邪症状がない							
③ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がない							
④ 臭覚や味覚の異常がない							
⑤ 体が重く感じる、疲れやすい等がない							
⑥ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がない							
⑦ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいない							
⑧ 過去7日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がない							
⑨ その他、気になること（以下に自由記述）							
 （大会参加者が未成年の場合）保護者 確認欄 保護者 氏名 電話番号 Eメールアドレス 確認日 西暦 年 月 日							

(2)

(参考) 各団体が発出する各種方針・ガイドライン等

発行元	方針・ガイドライン等
世界保健機関 (WHO)	Considerations for sports federations/sports event organizers when planning mass gatherings in the context of COVID-19: interim guidance (英語)
厚生労働省	「新型コロナウイルス感染症対策基本的対処方針」 「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」
内閣官房	新型コロナ感染症対策本部資料 (内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室 HP) 業種別ガイドライン一覧 (内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室 HP)
文部科学省	学校再開に向けて (Q&A、通知等)
スポーツ庁	「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」 (2020.5.14)
日本スポーツ協会 日本障がい者スポーツ協会	「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドラインについて」 (2020.5.14) 「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン (改訂版)」 (2020.5.29)
日本スポーツ協会	スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について
日本プロサッカーリーグ (Jリーグ)	Jリーグ 新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン
サッカー・ブンデスリーガ	TASK FORCE SPORTMEDIZIN/SONDERSPIELBETRIEB IM PROFIFUSSBALL (独語)

RESPECT

大切に思うこと

サッカーがある日常が戻りつつあります。

大好きなサッカーができるという当たり前のことが、
どんなに素晴らしく、価値のあることなのか、
あらためて気づいた人も多いのではないのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症は恐ろしい病気です。
しかし、怖いのはウイルスだけではありません。
風評やデマ、誹謗中傷——
それに翻弄されることもまた、危険なことです。
感染者や医療従事者などに対する偏見や差別も、
決してあってはなりません。
私たちの命や生活を支えてくれる人たちに、
感謝とエールを送りましょう。

感染症への不安からサッカーへの参加を
迷っている人もいるでしょう。
今は自粛しようという気持ちになるのも当然のことです。
自分と異なる考えを持った人たちを
排除したりせず、理解し、尊重しましょう。

私たちは スポーツを愛する仲間なのだから。

みんなが安心してプレーできる環境づくりを
目指していきたい。

大切なサッカーを、 自分たちの手で守っていきたい。

そのために、リスペクト——。
関わりある人々やすべてを
大切に思うこと。

